

発行者 松井輝道

R I S E

ラ イ ズ

編集者 教 宣 部

NO.156 2008年 3月12日

|||||

「春闘終焉論」を打ち破り 鉄道労働者による春闘を 再構築しよう！！

東二両の仲間の皆さん、おはようございます。

2008年 2月12日、JR総連は2008春闘の要求として統一ペア3,000円・時短・非正規の仲間の待遇改善実現！を掲げ、2008春闘をスタートさせました。

JR東海労としても、ペア要求一律3,000円・定期昇給基準昇給額1,700円ならびに経過年数による基準昇給額減額撤廃すること。夏季手当基準内賃金+補償措置額の3.2ヶ月を要求すると共に、専任社員の基本給を一律200,000円の要求とさらに、契約満了報労金改善要求を、1年以上 300,000円・2年以上 650,000円・3年以上1,050,000円・4年以上1,650,000円・5年以上2,500,000円と、その他の要求をJR東海会社に申し入れを行ないました。

今年の2008春闘は、私達が職場の中から闘いを作り出さない限り、私達の生活が良くなることは目に見えているのです。石油原油高のあおりを受けガソリンはもとより灯油の異常なまでの値上げ、それに伴い石油で成り立っている製品や暖房の要る生鮮野菜などは、軒並み値上がりをしている現実があるのです。まさに私達の身近な問題であり、健康までも損なわれる事態なのであります。

私達は労働者として、働く以上は健康であることが一番大切なのであります。しかし、会社経営陣や管理者はそんな関係ない！「あるべき姿」を守り、忠誠心をしっかり持っていければいいのだ！！と思っているのです。

「忠誠心」だけで生活は良くならない！！

現在、日本の企業の中で春闘「賃上げ闘争」として闘っている労働組合は何処にあるのか？自分の生活や健康を守る為にも、私達は賃上げ要求を職場から闘い取ることが必要であり、現場の各分会は各労働組合本部へ要求を上げ、会社との団体交渉で賃金の引き上げを勝ち取っていくのです。そのために、職場での労働運動が、いや闘いが大切になってくるのです。

JR東海会社は2年前「賃金制度」の改正により、額に汗して働くものよりも経営陣や管理者が肥え太っていく「新しい人事・賃金制度」を導入しました。

私達、鉄道労働者は日本の春闘の再構築を創り出すために、会社の「あるべき姿」を打ち破りペア要求満額獲得を実現するべく職場から闘っていかうではありませんか！！

私達の未来のために！！

次回に続きます。